

体験型海外教育実地研究 -第4学年 「絵手紙を描こう」-

所属 学習科学専攻 カリキュラム開発専修 氏名 大里 弘美

1 はじめに

国際化の進展に伴い、国際社会の中で生きていく日本人としての自覚を持ち、主体的に生きていく上で必要な資質や能力を養うことが求められている。第15期中央教育審議会答申では、この国際化に対応する教育を進める上での留意点の一つとして、「広い視野を持ち、異文化を理解するとともに、これを尊重する態度や異なる文化を持った人々とともに生きていく資質や能力の育成を図ること¹。」を挙げている。また、同じ答申の国際理解教育の充実として、特に重要と考えられることとして、「多様な異文化の生活・習慣・価値観などについて、『どちらが正しく、どちらが誤っている』ということではなく、『違い』を『違い』と認識していく態度や相互に共通している点を見つけていく態度、相互の歴史的伝統・多元的な価値観を尊重し合う態度などを育成していくこと」を挙げている。

また、平成10年の教育課程審議会答申の「国際化への対応」に、外国語教育の改善が挙げられており、小学校における外国語の取扱いについても、「国際理解教育の一環として、児童が外国語に触れたり、外国の生活や文化に慣れ親しんだりするなど小学校段階にふさわしい体験的な学習活動が行われるようにする必要がある²」と述べられている。

これらのことから、多様な異文化の生活・習慣・価値観・言語に触れる体験的な学習活動を仕組むことで、異文化と自文化の違いに気付き、異文化受容の態度の育成に繋がると考える。

「体験型海外教育実地研究」では、アメリカの小学校で授業を行う研修内容が設定されており、アメリカと日本の児童の異文化交流をねらいとした授業が展開できると考え、本研修を受講した。

2 実地研究の日程と概要

		交通等	訪問地・用務等	泊
4/11	火	履修等, 説明会 L304		
6/1	木	1330-1500 L304	第1回 事前研究	
6/29	木	1330-1500 L304	第2回 事前研究	
7/25	火	1800-1930 L304	指導案(英文)検討 7/28 講演会・7/29 学校間国際フォーラム 打ち合せ	
7/28	金	1330-1420 C527	講演会 米国小学校教育事情(TAGとグローバル教育)	
7/29	土	1300-1630	広島県立生涯学習センター GPSC 学校間国際交流フォーラム	
8/3	木	1330-1600 L304	第3回 事前研究 個別研究テーマ(授業実践研究)の交流と協議	
8/29	火	1330-1600 L304	第4回 事前研究 旅程確認・諸準備ほか	
9/3	日	広島-成田 0745-0925 NH-3128 成田-ワシントン 1110-1045		米国ノースカロライナ州 Greenville City Hotel & Bistro

		NH-2 ワシントン 1344-1448 ローリー UA-7183		203 W. Greenville Blvd, Greenville, NC 27834 TEL (877) 271-2616 Toll Free (877) 271-2616
9/4	月		East Carolina University 事前打ち合せと準備	Greenville 同上
9/5	火		7:20 学校へ出発 7:40 Watson 先生と授業について打ち合わせ 8:00 学校放送で紹介される 8:00 4年生 英語の文法の授業 大文字・小文字の間違い, スペルの間違い をプリントに書き, 発表する。 9:00 丸子さんの授業 “We love Hiroshima - Favorite Places and Events in Hiroshima” 10:00 為重さん授業 “Let's play Bingo” 11:00 4年生 社会科地理の授業 アメリカの州の位置の確認をする。 11:50 Wahl Coates E.S.のカフェテリアにて, 昼食をとる。 13:00 4年生 帰りの H.R. 宿題を記入する。 13:30 為重さん授業 “Let's play Bingo” 14:15 East Carolina 大学へ移動する 15:00 East Carolina 大学の教材センターの見 学をする 17:00 East Carolina 大学の学食で夕食をとる。 18:30 山口さんの日本語の授業に参加する	Greenville 同上
9/6	水		8:00 Watson 先生と当日の予定について打ち合 わせ 8:15 大里授業 “Let's Draw Etegami” 9:15 授業終了 9:15 丸子さんの授業 “We love Hiroshima - Favorite Places and Events in Hiroshima” 10:30 Mrs.Judy Frye-Counselor に, Wahl Coates E.S.の生徒指導の在り方について 説明を聞く。 11:00 Sanderson 校長先生に Wahl Coates E.S. の教育について, インタビューをする。 12:00 Wahl Coates E.S.のカフェテリアにて, 昼食をとる。 13:00 P.E.の授業参観 13:30 図画工作の授業参観 14:15 East Carolina 大学で “Social Study” の授 業を受ける。 「日本とアメリカの学校の教育事情について」 15:30 教材店で教材を視察する。 17:00 レッドフォードさんと事後の会食	Greenville 同上
9/7	木		8:00 Raleigh に移動 9:30 Raleigh に到着 10:30 Raleigh の旧 Capital の見学 11:00 Exploris middle school を見学 13:00 Exploris 附属博物館を見学	米国ノースカロライナ 州 Raleigh Raleigh Marriott Crabtree Valley 4500 Marriott Dr., Raleigh, NC 27612 TEL (919) 781-7000 FAX (919) 781-3059
9/8	金	ローリー 1245-1350 ワシントン UA-7374	10:00 ローリー空港へ出発 11:00 ローリー空港へ到着” 15:15 ホテルに到着	Washington DC Beacon1615 Rhode Island Ave, NW, Washington, DC 20036TEL (202) 296-2100 FAX (202) 331-0227
9/9	土		9:00 ワシントン博物館・モニュメントに到着 10:00 スミソニアン博物館を見学 ・宇宙博物館 ・国会議事堂 ・植物博物館	Washington DC 同上

			・アメリカ博物館（昼食） ・リンカーン聖堂 ・ケネディ記念センター 18:00 演劇鑑賞 20:30 Elmhurst Elementary School の先生と会食	
9/10 9/11	日 月	ワシントン 1220-1520 成田 NH-1 成田 1725-1900 広島 NH-3129		機中泊
9/29	金	事後指導 発表会		

3 研究授業（アメリカと日本での実地研究授業について）

3.1 対象学年と単元名 第4学年（アメリカ） 第5学年（日本）「絵手紙を送ろう」

3.2 単元観

絵手紙は絵とメッセージで気持ちを伝える手紙やはがきのことである。絵手紙の学習材としての教育力として山崎歩は、次の5つを示している³。

- 1 伝統的な力：筆で表現することの楽しさ（興味を引き出す）
- 2 国際的な力：自国文化を知る（他国文化との比較・融合。自国文化を使ったコミュニケーションの成立）
- 3 コミュニケーション能力：コミュニケーション方法を知り、自分の表現を見つける。
- 4 心の育成・個性に関する力：他人を思いやる心、つながりを大切にする心の育成。自分が気がついていない個性の発見、伸長。
- 5 集中力と根気：作品を仕上げる集中力、失敗を成功に変える努力・根気の育成。

この「伝統的な力」と「国際的な力」という観点から、絵手紙は日本の文化の一つと捉えることができると考えた。絵手紙をアメリカの児童に体験してもらうことで、アメリカの児童にとっては日本文化の体験となるであろう。

また「コミュニケーション能力」という観点から、アメリカの児童が描いた絵手紙を日本の児童が見ることで、日本の児童は、アメリカの生活や文化に触れ、アメリカの生活や文化に興味・関心を持つとともに、日本の生活や文化を認識する機会となると考えた。文化的シンボルを基にしたコミュニケーションによって、自他の文化の相違を効果的に気付かせることができるであろう。

3.3 学習指導案

まず、アメリカでの研究授業指導案を次に示す。

Lesson Plan

- 1 Title “Let’s draw Etegami (picture postcard)”
- 2 Target grade 4th grade
- 3 Subject Art
- 4 Purpose of the lesson
The students come in touch with their own culture and Japanese culture through Etegami (picture postcard).
- 5 Preparation materials
○colors, ○calligraphy brushes, ○ postcards made of Japanese paper,

- disposable cups , ○disposable palettes, ○some sample Etegami ,
- homework sheets ,
- a video tape that showed the students how to draw Etegami ,
- video camera, ○video tape recorder(VTR), ○20 magnets

6 Teaching Process (This lesson will take 60 minutes)

※ The students do their homework to prepare what they draw such as their national symbols on the day before the class. Therefore the teacher needs to hand out worksheets to the students.

Activity Students will	Instruction of teachers Teacher will	Preparation materials
1 Look at some sample Etegami and understand the characteristics of Etegami 【5,min】	1 Tell the students the characteristics of Etegami. 【4 characteristics】 ① draw a contour with a calligraphy brush. ② draw a picture as large as possible out of the postcard ③ write some message ④ put a seal (But they don't put on today's lesson)	Place: class room 1 Put up on the board some samples of Etegami.
2 Watch a video of Etegami and know how to draw Etegami . 【5,min】	2 have students watch a video of how to draw picture.	2 a video tape and video camera
3 Practice to draw an apple by calligraphy brush. 【10,min】	3 demonstrate how to draw with a . calligraphy brush	3 Indian ink, colors, calligraphy brush, postcards made of Japanese paper
4 Draw their Etegami. 【20-30,min】	4 give the students some advices to draw .	disposable cups disposable palettes
5 Put up their Etegami on the blackboard.	5 tell the students to put up their Etegami and clear away the materials when they finish drawing.	5 20 magnets
6 write some comments which part of today's lesson they enjoyed most and which part of today's lesson they had difficulty.	6 (If there is no time , the students write some comments another time .)	6 worksheets

次に日本での研究授業指導案を示す。

総合的な学習の時間指導案

- 1 学 年 第5学年 2クラス各24名 (5年生教室)
- 2 日 時 平成18年 9月12日～9月26日
- 3 単元名 「アメリカの友だちに絵手紙を描こう」
- 4 単元の目標
 - ・絵手紙を通して、アメリカとの生活や文化の違いと共通点に気付くことができる。
 - ・絵手紙に日本の生活や文化を表現し、アメリカの友だちに発信することができる。
- 5 学習計画 (全6時間)

次	指導のねらい	学習内容 (・) 評価規準 (☆) 評価方法 (★)
1	○絵手紙を通して、日本文化	・絵手紙の描き方の特徴を知り、絵手紙を描く。

	に親しませる。	(☆) 絵手紙の特徴に気をつけながら、絵手紙を描くことができたか。 (★) 作成した絵手紙，行動観察
2	○異なる生活の仕方や文化に触れ，共通点と違いに気付かせる。	・アメリカの児童の絵手紙を鑑賞し，生活や文化の違いと共通点に気付く。 (☆) アメリカの生活や文化と自分の生活や文化の違いや共通点に気付くことができた。 (★) ワークシート，自己評価表，行動観察，発言
3	○異なる生活の仕方や文化に触れ，気付いたことをグループや学級で話し合うことにより，理解を深めさせる。	・アメリカの児童の絵手紙の違いと共通点について話し合い，理解を深める。 (☆) 生活や文化の違いや共通点をグループや学級の中で話し合うことで，アメリカの生活や文化への理解，自文化の理解を深められたか。 (★) ワークシート，自己評価表，行動観察，発言
4	○アメリカの児童へ自分の生活や文化を知らせる目的を持つことで，自文化への理解を深めさせる。	・アメリカの児童に送る絵手紙の題材を考え，グループで話し合い，絵手紙の題材の妥当性を吟味する。 (☆) アメリカの児童に伝えたい自文化に関するメッセージを明確にし，題材を考えることができたか。 (★) ワークシート，発言
5	○絵手紙のメッセージを英語にすることで，英語が異文化を持つ者同士のコミュニケーションツールになることを理解させる。	・JTE にインタビューし，メッセージを英語にする。 (☆) JTE に質問し，メッセージを英語にすることができたか。 (★) ワークシート
6	○アメリカの児童に絵手紙を描くことで，異文化を持つ人とのコミュニケーション意欲を高めさせる。	・アメリカの児童に送る絵手紙を描く。 (☆) アメリカの児童に送る絵手紙を描くことに意欲的に取り組むことができたか。 (★) 行動観察，作成された絵手紙

3.4 授業の実際

アメリカでの前日の宿題提示，実際の授業，アメリカの児童の絵手紙を題材にした日本での授業の実際について述べる。

まず，アメリカの授業について述べる。Wahl Coates E.S.での授業は1コマ1時間をいただいた。自分の文化について題材決定に時間がかかると予想されたため，前日にワークシートを配布し絵手紙の題材を考えさせた。この課題は19人中12人が行ってきた。

授業準備は，時間の節約のため絵の具はすでに18色がパレットに配置されているもの容易し，紙コップに入れた

墨汁，絵手紙用の筆，色彩用の筆，A4用紙に貼った絵手紙用のハガキを用意した。A4用紙に葉書きを貼った

のは，絵手紙の絵は葉書きからはみ出して描くことも手法の一つであるからである。授業では，絵手紙の特徴について説明し，日本の児童にアメリカの児童の文化を紹介するための絵手紙を描くことを伝えた。絵手紙を描く練習として，全員共通の「りんご」を題材に筆の持ち方，絵手紙の描き方について教師の見本を真似て絵手紙を作成した。その後，児童それぞれが考えてきた「自分の文化」に関する絵手紙を描いた。絵手紙を描いた時のアメリカの児童の様子を次に挙げる。



写真1 アメリカでの授業の様子

- 習字用の筆を使ったことが初めてなため，持ち易いように自由に持っていた。
- 輪郭を墨汁で描くことを理解していない児童がいた。
- 最も必要な部分をハガキに描かず，A4用紙上に必要な絵を描いている児童がいた。

○薄い色使いは全員、理解していた。

数名の児童が「これでいいのだろうか」と絵手紙を描くことへの不安を示した。そこで「それでよい。とても上手だよ。」と声をかけると、自信をもって続きを描いていた。文化について思いつかない児童の様子を見て、担任の先生が補足説明をしてくださった。そのことで題材を思いつかなかった児童も題材を考えることができたようである。その国の生活や文化をよく知っていないと適切な助言ができないことを実感した。片付けについても最後まで行い、学習規律が確立されていることが伺えた。

次に、日本での授業について述べる。始めにアメリカの学校生活のビデオを見せたことで、アメリカの児童に親近感を抱かせることができた。その後、アメリカの児童の絵手紙を提示し、教師による説明を加えていった。小学5年生では歴史的なことを調べることは難しく、また時間の制約もあったため、教師からの情報提示となった。日本の児童は、どの絵手紙の題材にも興味を示し、



写真2 日本の授業の様子

日本のものと比較していた。「アメリカの小学生もみんな鉛筆を使うんだ。ペンを使うのかと思っていた。」とアメリカの児童との共通点に気付いたり、「リスが家の周りにいるの？日本では動物園でしか見たことがないよ。」と相違点に気付いたりしていた。

このようにアメリカの児童の絵手紙を考察した上で、アメリカの児童に送る絵手紙の題材を決定した。実際にアメリカの児童に送るという場面を設けることによって、日本の児童は自分の生活や文化を深く見つめることができていた。

3.5 考察

アメリカの児童は授業の様子、授業後の感想から、日本の児童は授業の様子、事前・事後のアンケート、授業のワークシート、自己評価表などから考察をする。まず、アメリカの児童が書いた授業についての感想を次に挙げる。

(楽しかった○、楽しかったが難しかった△、難しかった●)

- 絵手紙を描くために、お母さんに墨汁を買ってくれるよう頼むつもりだ。とても楽しくいい経験になった。
- 絵手紙を描けたし、日本の人についても分かったのでよかった。
- △絵手紙を描くことは楽しかった。先生の描いたりんごは私が描いた物よりも上手だった。残念だったのは、上手に描けなかったことだ。
- △絵手紙を描くことは楽しかった。でも、宿題で絵手紙に何を描くかを考えてくることが難しかった。
- 絵手紙を描くことが難しかった。

アメリカの児童の感想を、授業の印象について「楽しかった」「楽しかったが難しいところがあった」「難しかった」の3つのカテゴリーに分けて図1に示す。

19人中3人が「絵手紙を描くことが難しかった」と受け止めている。その内2人が「絵手紙を描くことが難しい」と答えており、残りの1人は、「宿題で絵手紙の題材を考えることが難

しい」と答えていた。これは、時間の制約のため、十分な説明なくアメリカの文化についての題材を宿題として考えさせたこと、実際の授業では、絵手紙の説明と描き方の練習、アメリカの生活や文化の絵手紙を描くことという3つの活動を1時間に行ったことが原因していると考えられる。しかし、8割近い児童が「楽しかった」と答えており、「これからも絵手紙がしたい」という児童もいた。

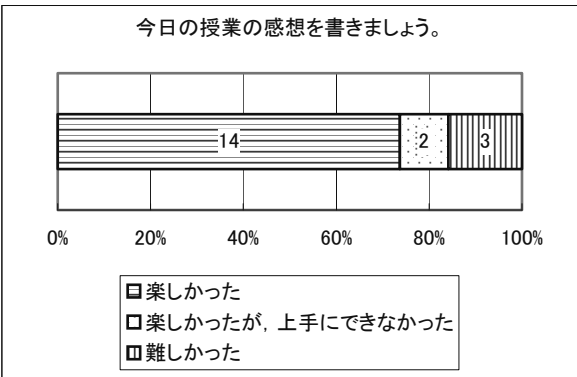


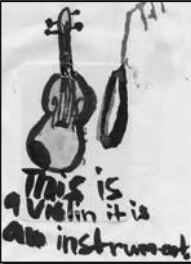
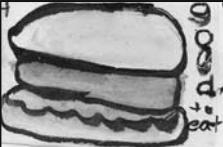
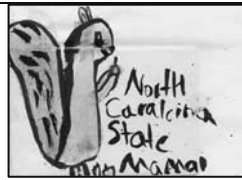
図1 アメリカの児童の授業の感想

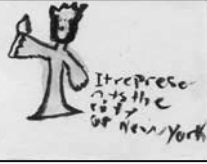
次に、アメリカの児童が描いた絵手紙の題材と日本の生活や文化の類似点と相違点について、日本の児童が出した意見を表1、表2に示す。

表1 日本の児童が挙げた生活や文化に関するアメリカと日本の同じものやこと

アメリカの友だちが描いた絵手紙	絵手紙の下絵に書かれたメッセージ	題材を取り上げた視点	日本の児童の感想
	A beautiful flower for beautiful people. 美しい人々のための美しい花	ワシントンD.C.を代表する美しい花	日本から送った桜がアメリカにあることに驚いた。
	We use a pencil to write at school. ぼくたちは学校で書くのに鉛筆を使う。	学校で使う筆記用具について	アメリカでは、学校の勉強でペンやシャープペンを使うのかと思っていた。日本と同じように鉛筆を使うんだ。
人形遊び	I play dolls with my friends. 私は友達と人形遊びをします。	友だちとの遊びについて	日本でも、女の子の遊びでお人形さんごっこがある。
家	It reminds me of South Carolina the house that we rented. 私たちが借りていたサウスキャロライナの家を思い出します。	アメリカの家について	アメリカの家は日本と形が同じなんだ。
	It reminds me of marshmallows on top of yams. サツマイモの先は、マシュマロを思い出させます。	サツマイモの味について	日本と同じ調理法でサツマイモを食べるんだ。
	Ice skating exercise have fun. アイスケートの練習は楽しい。	習い事について	私たちの習い事には、習字、空手、ピアノ、剣道などがあるよね。

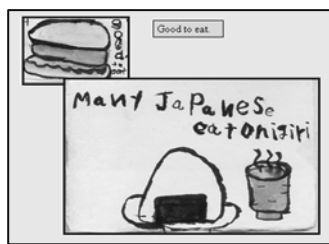
表2 日本の児童が挙げた生活や文化に関するアメリカと日本の違うものやこと

アメリカの友だちが描いた絵手紙	絵手紙の下絵に書かれたメッセージ	題材を取り上げた視点	日本の児童の感想
	This is a violin. It is an instrument in the U.S.. これバイオリンです。それはアメリカ合衆国の楽器です。	アメリカの楽器について	バイオリンは日本にもあるのでアメリカ独特の楽器ではないと思うな。日本の楽器といえば、三味線や琴があることを音楽の時間に習ったよ。
	Many people drink Mountain Dew in America. アメリカではたくさんの人がマウンテンデューを飲みます。	アメリカの人がよく飲む飲み物について	日本では、マウンテンデューのような炭酸飲料ではなくて、お茶がよく飲まれるよね。
	Peace and liberty. 平和と自由	アメリカの人の願いとその象徴について	ぼくたちの平和の象徴は折鶴や原爆ドームだね。でも、平和を願う気持ちはアメリカの友だちと同じなんだ。
	Good to eat. おいしい食べ物	アメリカの代表するおいしい食べ物について	日本でもハンバーガーを食べるけれど、アメリカの方が随分大きいんだ。日本でおいしい食べ物は、お米、おにぎり、ごはんかな。
	Respect of () America . () アメリカの尊重	アメリカを代表する花	青い花は日本ではあまり見ないな。海田町で代表する花と言えば「ひまわり」だな。
	North Carolina State mammal. ノースキャロライナの哺乳動物	身の周りの哺乳動物について	日本では「りす」は動物園か山でしか見られないな。日本で身の周りの動物と言えば、「ねこ」か「犬」かな。
	American lunch or dinner. アメリカの昼食や夕食	アメリカの昼食や夕食について	日本では、ポテトやビザを食べるときもあるけれど、昼食には弁当、夕食はご飯とおかずなどが多いな。
クリスタル	It reminds me of Texas. これはテキサスを思い出させます。	テキサスの特産物について	広島県で言えば熊野町の特産物は熊野筆だろうね。

	It reminds me of the City of New York. これはニューヨークという都市を思い出させます。	ニューヨークの象徴について	日本の象徴といえば、人が作ったものとしては東京タワー、最も有名なものは富士山だろうな。
---	---	----------------------	--

次に日本の児童のアメリカの児童に送る絵手紙の題材を示す。

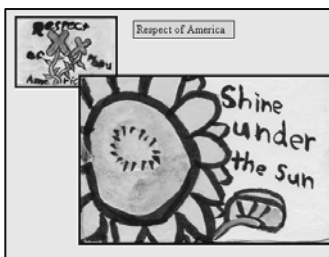
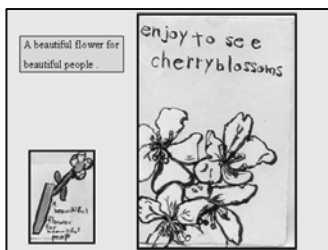
【食べ物・飲み物】



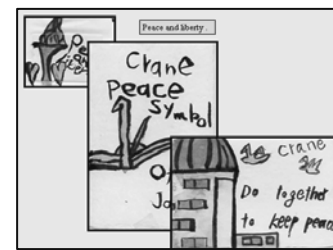
【象徴的なもの】



【自然のもの】



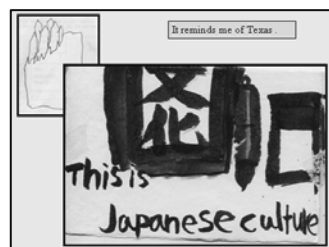
【人々の願い】



【伝統的なもの】



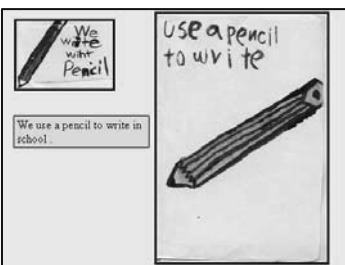
【特産物】



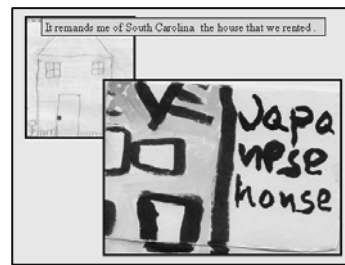
【遊び】



【学習道具】



【建物】



アメリカ児童が描いた生活や文化は日常生活のものから、伝統的なものまで様々であったが、特産物（1人）、人々の願い（2人）、土地の象徴（3人）を除いた13人が日常生活のものを

題材に選んでいた。

アメリカの児童の絵手紙を見る前に日本の児童が描いた日本の生活や文化は、48人中5人が日常生活のもので、他の43人は、日本、広島県、海田町独特のものや伝統的なものであった。これは、日本の児童は生活科、社会科、「総合的な学習の時間」などに、自分の身の周りの地域、住んでいる市町、県について学習をしていることが原因の一つとして考えられる。

アメリカの児童の絵手紙を見た後の日本の児童の描いた絵手紙の題材は、アメリカの児童の絵手紙に呼応した日常生活のものが増えた。日常生活のものでは、学習道具、家、飲みもの（お茶）、土地独特のものとしてその土地の象徴的なもの、その土地の人々の願いなどは、アメリカの児童の絵手紙を見る前にはなかった題材である。

これは、アメリカの児童に送るという目的を持つことで、アメリカの児童が描いた絵手紙に対してどのような絵手紙を書けばいいのか、他者を意識して絵手紙の題材を選んだことが影響していると考えられる。日本の児童は、このことで他者から絵手紙を通してメッセージを受け取り、他者にメッセージを発信するというコミュニケーションを体験したと言える。

次に、日本の児童が本単元終了後に書いた感想を示す。（●共通点、◎違い、○その他）

- 鉛筆は自分たちだけしか使っていないと思っていた。
- アメリカにも桜があったので驚いた。昔、日本から送られたことを知り、なぜ送ったのか知りたくなった。
- 外国にも平和を祈る気持ちがあることが分かった。
- ◎自由の女神はアメリカ独立 100 年のお祝いにフランスから送られたのか。アメリカは意外と歴史が浅いのだな。日本の方が長いな。
- ◎アメリカの人々は炭酸飲料をよく飲むそうだが、日本の人々はお茶をよく飲んでいるなどと思った。家の人に骨がとけるといわれるので、自分もあまり炭酸飲料は飲まない。
- ◎アメリカのノースキャロライナには、近くの公園でリスが見られることを知って驚いた。
- ◎昼食や夕食にハンバーガーやポテトを食べるそうだが、自分はあまり食べない。外食をあまりしないから。
- 日本やアメリカは、いろんな所が違っていたり、同じことがあるんだなどと思った。
- 一つ一つの国が全部同じではなくて、似ている所、全然違う所もあることを知った。もっと他の国のことを知りたい。
- 何かを相手に伝えることは楽しいと思った。そして、気持ちがないと相手に伝わらないなどと思った。
- 自由の女神は平和などの象徴で、日本にも原爆ドームや折鶴などがあるから、平和を思う気持ちは同じだと思った。

次に、日本の児童に本単元の事前と事後に行った「外国への興味・関心」と「外国語を使ってコミュニケーションを図る意欲」についてのアンケートの結果をそれぞれ図2、図3に示す。

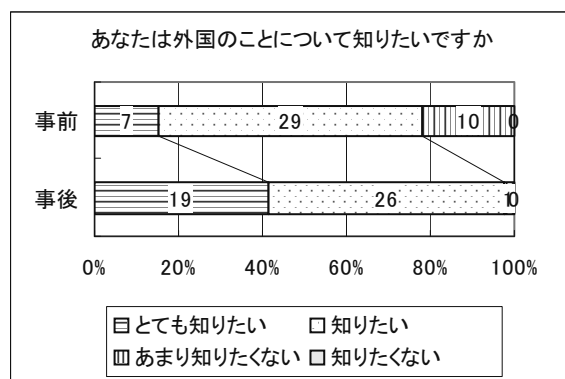


図2 外国への興味関心

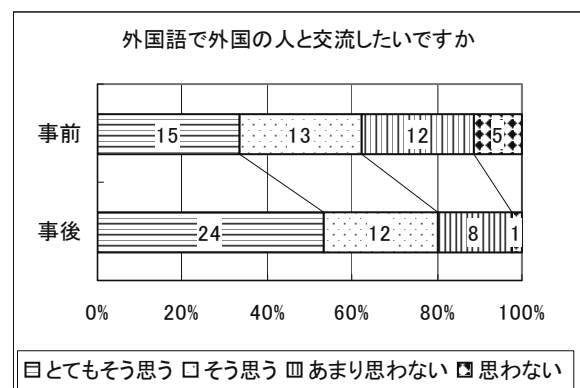


図3 外国語を使ってコミュニケーションを図る意欲

これらのことから、日本の児童はアメリカの児童の絵手紙からアメリカの生活や文化に触れ、日本の文化を見つめ直し、日本とアメリカの生活や文化の違いや共通点に気付くことができたことが分かった。また、異文化に触れたことは、外国への興味・関心や、外国語を使ってコミュニケーションを図る意欲を高めることに繋がったといえる。

4 体験型教育実地研究における自己変容

4.1 教育観の変容

Wahl Coates E.S.の視察の中で見られた事象を児童観、授業観、学校観の視点から次に示す。

【児童観】

- ・授業中の私語・立ち歩きはなく、落ち着いて学習に取り組んでいた。
- ・廊下歩行は、一列に並び整然と行っていた。
- ・担任教師の発問に対して、挙手して答える児童はあまり多くなかった。

【授業観】

- ・文や単語の書き方について学習する英語の授業では、児童はプリントに、教師は児童が持っているプリントを印刷した OHP シートを使い、スペルミスや大文字、小文字の違いなどを確認していた。
- ・ノースキャロライナ州の位置を確認する社会の授業でも同様に、児童はプリントに、教師は児童が持っているプリントを印刷した OHP シートを使い、州の位置を確認していた。
- ・体育の授業では、授業開きを行っており、授業で守るきまりの説明を行っていた。

【学校観】

- 学校体制について
 - ・校長・副校長が登校・下校の際に、道路に立ち、交通整理を行っていた。
 - ・学校生活のきまりが「走らない」「大きな声で話さない」など具体的に示されていた。
 - ・学校生活において 3 回注意を受けると、担任ではなく別の教師が指導にあたるなど、児童の指導が組織的に行われており、各教師の仕事分担が明確になっていた。
- 学級について
 - ・一クラス 30 人までの学級編成であり、生活指導が行き届いていた。
 - ・4 クラスの授業を視察したが、どのクラスも同様に落ち着いていた。
- 学校施設について
 - ・体育館は日本の学校よりも随分小さく、運動場がなかった。中庭に遊具が備えてあった。
 - ・各クラスに 6 台前後のパソコンや読書スペースが設けられていた。
 - ・図書室には、司書の役割をする人が常駐している。図書室にパソコンルームが備えてあった。

これらのことから、Wahl Coates E.S.では、教師の役割が明確となっていること、児童に具体的な指示が出されていること、少人数の学級組織であることが児童の落ち着いた学習習慣に結びついていると考えられる。

4.2 自分自身の変容について（グリーバルマインドも含む）

本研修は、ノースキャロライナ州の学校訪問と授業実施を目的としていたことから、授業実施と学校視察において感じたことを述べる。

まず、Wahl Coates E.S.での授業実施では、日本における ALT (Assistant English Teacher) の立場や思いを理解することができた。常駐の勤務校でない場合、授業準備や担任との打ち合わせ、児童の振り返りによる授業内容の習熟度の確認など、授業を実施するに当たって必要な諸準備を行うことが難しいことが分かった。具体的には、視聴覚機器などの学校にある学習機

材や学習用具の把握とその使用，児童の実態の把握などである。このことから，これからの学校現場で ALT とともに授業を行う際に，その学校に常駐する教師として，ALT に配慮しなければならない事項を明確にすることができた。

次に学校視察に関して，本研修では，Wahl Coates E.S.と Exploris middle school の2校について学校視察を行った。Wahl Coates E.S.についての考察はすでに示した通りである。Exploris middle school について，視察で分かったことを次に示す。

- ・数学以外の教科は「English Art」「Science Art」など「Art」が付く。これは，日本における「美術」ではなく，「表現活動」を指している。見学した授業では，理科の脳細胞の働きについて，これまで調べ学習をしてきた資料を用い，ペアで説明し合う表現活動をしていた。「Art」とつく教科は，他の教科と横断的に関連を持たせ，必ず表現活動を取り入れた学習活動を行うことである。
- ・「P.G.」という15人程度のグループに分けた学習をしている。ある「P.G.」の授業では，平和について資料を読み，それについて討論を行っていた。
- ・「Global Art」は，公立小学校の「Special subject」にあたり，音楽，美術，体育を行っている。
- ・Exploris 附属博物館が同じ敷地内にあり，Exploris middle school の学習に役立つように，豊富な実物教材や視聴覚教材，実験教材，インターネット環境が整っている。

Wahl Coates E.S.と Exploris middle school では，学習の形態が異なっており，児童・生徒の学習へ取り組む姿勢も異なっていた。小学校と中学校であることや，公立学校と博物館附属の学校であることなどの違いが影響しているものと考えられるが，児童・生徒の実態に応じて，それぞれの学校が，教育方針を創意工夫していると感じた。

日本においても，学校・地域の実態に応じた学校経営が求めている。これからの学校組織や学習形態を考えていく上で，Wahl Coates E.S.と Exploris middle school の学校経営は，参考になるものであった。

5 おわりに

日本にも外国から来た人々が増え，以前に比べると異文化を持つ人々と触れあう機会は増えているが，まだ十分とは言えない。学校教育において国際理解教育の積極的な推進が求められているが，実際に学校で，異なる文化を持つ人々との交流を推進することは難しい。さらに言えば，異なる文化を持つ小学校の児童同士の交流はもっと難しい。

今回の「体験型海外教育実地研究」における絵手紙での児童間異文化交流を通して，児童にとってより興味を持ちやすい交流の在り方が自分と同年代の児童との交流であると実感した。同じ発達段階にある同年代の児童が伝える生活や文化は，児童の興味・関心を引き出す力を持っている。だからこそ，姉妹校の提携やインターナショナル・スクールとの交流を進めていく必要があると言われているのであろう。今後，小学校における児童間の交流を図る方法を探る必要があると考える。

【引用・参考文献】

¹ 文部省『審議会答申等（21世紀を展望した我が国の教育の在り方について（第一次答申））』

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/12/chuuou/toushin/960701n.htm, 1996

² 文部省『教育審議会答申等（幼稚園、小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校の教育課程の基準の改善について（答申）の概要）』

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/12/kyouiku/toushin/980701.htm#1, 1998

³ 山崎歩「図画工作科における『絵手紙』の学習材としての可能性」広島大学学術論文 2005